

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
40	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Drinking pattern and mortality in middle-aged men and women. 飲酒パターンと中年男女の死亡率	
<b>執筆者</b>	
Tolstrup JS, Jensen MK, Tjonneland A, Overvad K, Gronbaek M.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Addiction. 2004;99:323-30.	
<b>キーワード</b>	
飲酒パターン、飲酒習慣、前向きコホート研究、死亡率	
<b>要 旨</b>	
<p>(目的) 飲酒パターンと将来の総死亡の関係を明らかにする。</p> <p>(方法) デンマークの一般集団において、1993年から2003年まで追跡したコホート研究である。対象者は追跡開始時に55-65歳の男性26,909名および女性29,626名であった。飲酒量や頻度の違いによる総死亡の危険を評価した。その際、食事を含む生活習慣に関する諸因子を調整した。</p> <p>(結果) 追跡期間中、1,528名の男性および915名の女性が死亡した。平均飲酒量が同じ程度なら、習慣的飲酒よりも、機会飲酒のほうが、死亡の危険は高かった。</p> <p>(結論) 飲酒と総死亡には関係があるが、飲酒の量だけではなく頻度も重要である。今後の各種のガイドラインなどで飲酒について言及する場合には、量だけではなく、飲酒パターンも考慮する必要があると考えられる。</p>	